

正月元旦大晦日から遊びにきてテンヤワンヤの大騒ぎ。5歳の志乃と4歳の和徳(カズハリ)、始めのうちはまともに相手し遊んでいたが疲れた。

疲れたので寝たふりをすると別々に遊んでいる。そのうち見て見てというので見ると毛布を引きずって「お姫様」だというのできれいだねといえば、和ちゃんも毛布にくるまって見てくれとばかり。姉のまねをしたので。

男の子がお姫様のまねをすることはない。やるんだったら「月光仮面ライダー」がいいんじゃないか。これでは「着膨れ王子だ！」

お姫様 19/2/11 Hidekuro



「姫は幼い・若い女性」というイメージが定着し、時代劇においても高齢の女性には「姫」を用いない。

この日のトイレは歯磨の利用者二人で満員 20 分後のトイレは誰もいない。三日ぶりの排出を済ませ気持ちよし。

大きな鏡が見知らぬ爺やを、写していると思いきや、これは自分自身ではないか。うーんよく見ると確かに自分だ、これは自分ではないと否定したいところだがこれはまぎれもない鏡に写った自分だ、いつ、こんなに歳を重ねたのか？ 「こおんなジジイに誰がした…」と言ったところで詮無い。髪の毛は薄く、眼の下をはじめ全部が弛んで、どこにも若さを見出すことができない。

これも嘆くことはない、見方を変えれば 80 年間風雪にここまで耐えてきたのだから。仕方がないだろうこの後もこれで行こう。自分で自分を納得させるよりない。丁寧に手を洗い今後もよろしくと会釈した。

鏡 19/2/15 Hidekuro

